

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）メジロダイガク	フリガナ）ケイエイガクブ	フリガナ）ケイエイガクカ
目白大学	経営学部	経営学科

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 内動画 （有・無）	動画使用 スライドページ
フリガナ）チームエービーシー	フリガナ）キノシタトモヤ	4	無	
TeamABC	木下智哉			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物（例：商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート）
調査時に使用したアンケート(Google アンケートフォーム)

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ（発表タイトル）
早期英語教育について

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

昨今のグローバル化によって英語教育は変化しつつあるが、これらの英語教育に対して、現在の大学生がどのように考えているかを調査し、それを踏まえて、現在の英語教育をより良く発展させるための実現可能な方法について提案する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

私たちの両親の幼少期と比べ、現在の英語教育は大きく変化したと言える。昔は英語が喋れなくても困る機会はありませんでしたが、海外に行く人や海外に行きたいと考えている人、仕事で英語を使う一部の人が必要に迫られて学ぶ程度であった。しかし現在は、様々な企業の海外進出に伴ってグローバル化も進んでおり、更には東京でオリンピックも開催されることから、得意不得意に関わらず英語を学ばなければならない時代になってきている。つまり自分が海外に興味があっても勉強せざるを得ない状況になったのである。このような時代の要請に合わせて、日本では英語教育の強化や促進に力を入れ始めているが、他の教科と違い語学の学習には「マニュアル」が存在せず、教育する側も生徒の状況を見ながら手探りで教えているのが現状である。そのため、文科省はかつて以上に早期英語学習の重要性に焦点をあて、いよいよ小学 3 年生から英語教育を開始する方針を固めたが、早期英語学習については様々な課題が山積している。特に、「誰が？」「どうやって？」教えるか、という問題については明確な解決策が見いだ

されていない。しかし、これからますますグローバル化が進むであろうことを考えると、英語力を身につけることは日本にとって喫緊の課題と言える。

3. 研究テーマの課題

今回の研究テーマである「早期の英語教育」に関して大きな課題は二つあり、一つ目はやはり英語教員の人手不足であると考えられる。人員が確保できない以上教員一人ひとりの負担が増加することとなり、それによって教育の質も落ちていく可能性がある。もう一つは早期の英語教育に果たして意味はあるのか、ということである。今までは小学校5年生からだったものが小学校3年生からになった場合、劇的な変化が見込めるのかどうかはわからない。今回の研究では、それらに焦点をあて、早期英語教育がより持続的に実施されるための方策について考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

今回の課題の一つである、英語教育を行う教員の人員不足問題の解決策の一つとして我々が挙げるのは、地域と小学校をつなげ、仲介するアプリケーション、いわゆるマッチングアプリの作成である。例えば、地域の大学生がそのアプリに条件や名前や経歴などの情報を登録すると、その条件に合う同じ地域や付近の地域の小学校とマッチングする。大学生だけの話ではなく、専業主婦をしている人や、定年を迎えて退職し、空き時間が増えた人なども対象としており「英語を教えることができる」条件の様々な人が教育者となることができるアプリである。様々な人に教わることで、多感な時期にある小学生に語学を学ぶ上で最大の敵といえる「飽き」をこさせないようにすることが期待できる。また、学外の大人と関わりをもつことによって、社会的な学習ができるという副産物も得られるのではないかと考える。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

インターネットや書籍、大学教授の論文をもとに学生にアンケートを取り、英語教育の「これまで」から「これから」を導き出す。

6. 結果や今後の取り組み

英語を教える指導者の人手不足が重要な問題点であるとわかった。この問題を解決するためのアプリケーションの提案だけでなく、実際にどの程度足りていないのか現場の人の声を聴き、細かく調査し解決するための手法を考えていきたい。

7. 参考文献

<http://www.mext.go.jp/>

「文部科学省公式 HP」(情報取得日 2019.9.10)

http://www.sunrisekids-education.jp/useful/first_edu/02.html

「早期英語教育のメリット・デメリット」(情報取得日 2019.9.15)

http://www.shigakukan.ac.jp/information/upload/report2012_03.pdf

「早期英語教育は必要か 蔵満百佳」(情報取得日 2019.9.15)

小学校でなぜ英語？-学校英語教育を考える 著:大津由紀雄・鳥飼玖美子

早期英語教育 著:垣田直巳 松畑熙一

子どもの認知と言語はどう発達するか 早期英語教育のための発達心理言語学 著:ジョン・オーツ アンドルー・グレイソン 井狩幸男 他

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経BPマーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1〜7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、

A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください